

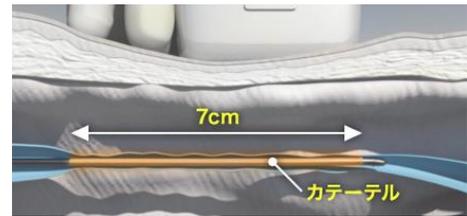
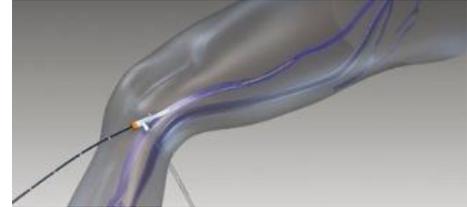
下肢静脈瘤でお困りの方に レーザーよりも新しい 血管内焼灼用高周波（ラジオ波）治療機器 を平成27年5月から導入しました！

血管内焼灼用高周波（ラジオ波）治療とは？

血管内焼灼用高周波（ラジオ波）治療とは、下肢静脈瘤の治療としてアメリカで多く実施されている治療法の一つで、世界で100万件以上の治療実績があり、日本では、昨年平成26年6月より**保険適応**となりました。

東播、明石地区では、当院が最初にこの治療法を導入しました。

手術方法は、従来のレーザーを用いたカテーテル治療とほぼ同じですが、体への負担は更に少なくなっています。皮膚に開けた小さな開口部から高周波アブレーションカテーテルを静脈内に挿入し、カテーテルから放出される熱により静脈壁を収縮させ、静脈瘤を閉塞させてしまう治療法です。



血管の中のカテーテルに高周波電流を流して120℃に熱し7cmずつ血管を焼く

血管内焼灼用高周波（ラジオ波）治療のメリット

- ① 日帰りを含む、**短期滞在手術**が可能です。
- ② 傷跡が一か所ですみ、跡がほとんど残らず目立たない。
- ③ 治療時間は、麻酔を含めて60分程度です。
- ④ 従来のレーザー治療と比べて術後の痛みが少なく、皮下出血の量も少ない。
- ⑤ 保険が適用されるので、費用が安い。

当院は“下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施医を有する実施施設”です



下肢静脈瘤の高周波（ラジオ波）治療機器
（COVIDEN社製）



下肢静脈瘤外来のご案内

● 下肢静脈瘤 とは？

下肢の静脈が太く浮き出ているものを下肢静脈瘤と言います。下肢の静脈の弁が壊れ、血液が静脈内に停滞して拡張することで静脈瘤となります。

症状としては、下肢のむくみ、だるさなどのほか、下肢がつりやすくなり、時間の経過とともに色素沈着、皮膚潰瘍ができたりもしますので早めの治療が望まれます。

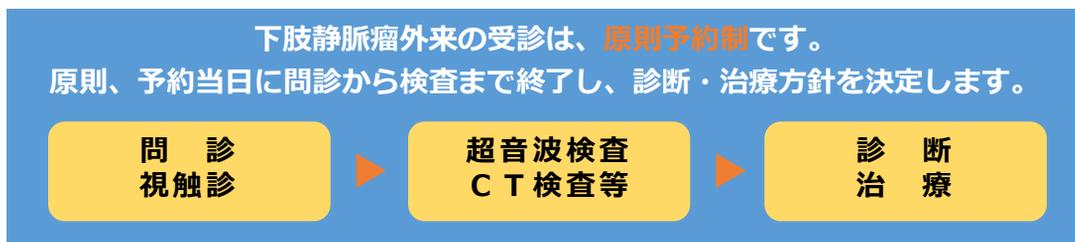


● 下肢静脈瘤 の主な治療法

当院の下肢静脈瘤外来では、平成26年6月より保険適用となった最新の「**血管内焼灼用高周波（ラジオ波）治療機器**」を本年5月に導入することとなりました。

また、下肢静脈抜去術（ストリッピング術）、下肢静脈高位結さつ術、弾性ストッキングによる保存的治療や硬化療法等、静脈瘤のタイプによって様々な治療法を行っております。診察は、兵庫医科大学 形成外科 西本教授の連携のもと、院長 石井を中心にエコー、CT等の最新の医療技術を駆使し、低侵襲の治療に努めています。

また、医師、看護師、コメディカルスタッフ達との連携と協働によるチーム医療を行い、患者様の幅広いニーズに対応しています。



● 診察時間・担当医表

午前 9 : 00 ~ 12 : 00 / 午後 4 : 00 ~ 7 : 00

	月	火	水	木	金	土	
午前	中村	石井 9 : 30 ~	石井	朝倉	中尾	石井 1.3.5週	中尾 2.4週
	堀江			堀江			
午後	石井	中村	中尾	西本	小原		
				堀江	堀江		

■ 下肢静脈瘤外来担当医師 その他、協力医師



医療法人社団 仁恵会

石井病院

〒673-0881 明石市天文町1丁目5-11

TEL 078-918-1655 (代)